～＊～＊～＊～＊～*～*～

山村武彦氏の防災講演会

2016.7.10　昭和館

～＊～＊～＊～＊～*～*～

●何のために災害に、備えるかは、失ったら取り返しがつかない「命と時間」のためです。

●「備えあれば憂いなし」と言いますが、現実は、憂いが目の前にあったときに、初めて準備、対策ができるのです。だから憂いをきちっと、本当に起きることをしっかりと地域の方に伝えるということが大事。

●防災リーダーがやらなきゃいけないことは、皆さんの意識をあげることです。役員だけ意識が高くても、一般の住民の意識が低ければ、その地域では犠牲者が必ず多く出ます。

●防災の一番大事なことは、人が死なないこと、死なせないことです。命より大事なものはないのです。よく水・食料が大事だといいますが、日本での災害で水・食料がなくなって死んだ人は一人もいないのです。命さえ助かれば、あとはなんとかなる。災害なんかで死んではいけないし、死なせてはいけないのです。

●地震が起こるってことはみんな知っていた。立川断層だっていつかは動くだろう。首都直下地震が起こるだろう。で、『今夜は起こらないだろう。明日もまだ大丈夫だろう。なんでそう思うのですか？』と聞くと「なんとなく」なのです。今夜、起こるかもしれない。明日、起こるかもしれない。そう思ったら準備できるのです。まだ先だと思っているときは何も準備できない。これをきちっと地域の皆様に意識付けすることが一番大事です。

●自分の命は役所が守るのではなく、なぜ自分で守らなければいけないのか、その意識、正しい知識がないと正しい意識は生まれないです。意識を揚げることが大事です。

●これからは安全な場所に住む、安全な場所にする防災。今までは逃げる・守る防災でしたが、それだけではなくて安全な場所にする防災。

●役所も被災する。行政だって被災者になってしまうのです。だから自分たちの地域は自分たちで守るしかないのです。自分や家族を守れるのは自分なのです。

●立川断層も直下地震はＰ波もＳ波も同時に来ると言われています。大事なのはわが家の安全ゾーンを作る。安全ゾーンというのは転倒落下物の少ない、閉じ込められない場所です。小さな揺れでも緊急地震速報で、直ちに安全ゾーンに移動するということが大事です。落下物や転倒物で人がけがしたり死んだりしますから、家の中の耐震化(家具転倒移動対策)を徹底的にすることです。「命捨てるな、もの捨てろ」です。

●普段から小さな揺れや緊急地震速報、空振りでも、そのときに安全な場所に移動する癖を普段からつけている人は、凍りつき症候群にはならない。

●小さな揺れや緊急地震速報は防災訓練開始の合図。あなた地震のときにどうしますか？「私は火を消しますよ、ドア開けますよ」と言う。大抵の人は「おお、地震だぞ」と言っているだけで何もしない。「いや、大揺れになってから逃げようと思っていました」と言います。大揺れになったら逃げられない。歩くことも立つこともできない可能性がある。家にいる人はだいたい「おっ、地震。テレビつけろ」テレビ見ている場合ではないです。

その間は自分の命を守る行動を取らなきゃ駄目なのです。その癖をつけておきましょう。

以上